

第3学年社会科学学習指導案

日 時： 令和4年11月10日 5時間目

対象学級： 北上市立江釣子中学校 3年D組

指 導 者： 佐々木 健登

1 単元名 第3章現代の民主政治と社会 3節 地方自治と私たち

教材名「3 地方公共団体の課題」(『新しい社会 公民』東京書籍 pp.114~115)

2 単元の目標

(1) 地方自治の基本的な考え方や、地方公共団体のしくみや住民の権利や義務について理解することができる。

【〔知識及び技能〕(2)ア(エ)】

(2) 地方自治や我が国の民主政治のしくみへの理解をもとに、個人の尊重と法の支配、民主主義などの見方・考え方を働かせながら民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙などの国民の政治参加と関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。

【〔思考力・判断力・表現力等〕(2)イ(ア)】

(3) 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民として自治を担おうとする意欲や態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元について

(1) 生徒について

本学級は、興味をもって社会科の学習に臨むことができる生徒が多い。中学校3年生になり、普段からテレビやスマートフォンなどマスメディアに触れる時間が増え、積極的に情報に触れている。

4月からの変容を見ると、グループワークに積極的に取り組めるようになってきている一方で、共有する際にどうしても発言力のある級友に左右される傾向が見受けられる。

地方自治の単元での学びを通して、未来の地方自治の参画者として、目の前の課題に対して、周囲の人の声を傾聴し、対立構造を見極め、合意形成をして乗り越えようとする姿勢や、その協働の中でも臆することなく、一個人としての論理的な自己主張ができる姿を育てていきたい。

(2) 教材について

本単元は、中学校学習指導要領公民的分野の内容「C 私たちと政治」のうち、「(2) 民主政治と政治参加」に位置づけられる単元である。ここでは住民自治を基本とした地方自治の基本的な考え方を理解できるようにするとともに、民主主義に基づく政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにする学習活動が求められている。

昨今の地方自治体を取り巻く状況は、少子高齢化、情報化、グローバル化、経済の変動などにより急速に変化しており、子育て支援から防災対策、福祉、教育の充実など多岐にわたる社会問題に着実に対応しつつ、活力ある豊かな地域をつくるため、これまでの行政主導から住民自治の主導へと移行していくことが欠かせなくなっている。そこで本単元では、「私たちがこれからの北上市のためにできることは何か」という単元を貫く学習課題を設定し、「民主主義の学校」とされる地方自治の基本的な考え方や仕組みを学習した後に、よりよい地域づくりのために必要な政策や自分たちにできることを主体的に追究できるようにした。一人の主権者としての自覚を育て、地域づくりに積極的に関わっていく態度や能力を育てることをねらいとして本単元を設定した。

(3) 指導について

本単元の地方自治の学習を通して、生徒も地域住民の一員として、地域の自治の担い手としての意識を持たせたい。自分の居住地域の課題を見つめ、よりよい暮らし、住みよい町づくりへとつなげるために、地方公共団体の運営に参画していこうとする姿勢を生徒に身につけさせたい。

具体的には単元全体の大きな課題として「私たちがこれからの北上市のためにできることは何か」という問いに沿って、自分が必要だと思うものという個人的な願望の視点から、グループワークを通して、実際に北上市が実現可能か、また、効率や公正の観点から北上市民として必要性が高いものかどうかという公民的な視点に立ち返り考えを整理することを促したい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
ア 地方自治が「住民自治の原則」と「団体自治の原則」の考え方に基づいていることを理解している。 イ 地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。 C(2)ア(エ)	ア 効率と公正に着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 C(2)イ(ア)	ア 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる少子高齢化や地方財政の財源不足の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

5 単元の指導の計画(4時間)

単元全体の課題「私たちがこれからの北上市のためにできることは何か」

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	「国と地方公共団体の役割の差」 ・国と岩手県、北上市は何がどう違うのか ・よりよい地域の形成という観点から、「自分」ならどのような北上市にしていきたいかを考える。	・地方自治の原則と地方分権に触れ、国政と地方の政治の大きな違いに気づかせる ・自助、公助、共助の観点	「知識・技能 ア」 ・ワークシート
2	「地方自治のしくみ」 ・地域の歳出予算のグラフを過去と現在で比較し、その特色を考察する。 ・具体的に北上市はどこにお金をかけてきているのかタブレットを使って調べる。	・二代表制と直接請求権という仕組み ・北上市の財政の具体的な数値を根拠として、出典を明らかにしてレポートを作成 ・地方財政の健全化の手段 ・ふるさと納税など	「知識・技能 イ」 ・ワークシート ・タブレットのレポート
3 本時	「地方自治の抱える課題」 ・北上市のパンフレットや資料から地域の課題や住民の声や要望を分析する ・自分の要望や願いと一致する	・今あるもののアップグレードを要求するのか、今ないものの設置を要求するのか ・それは実現可能か	「思考・判断・表現」 ワークシート

	ものはあるか ・その上で、優先順位が高いもの、実用性のあるものに協働で絞っていく		
4	「地方自治への住民参画」 ・地方公共団体のへの提言文を用意してみよう	・自助、公助、共助の再確認 ・どのような提言方法が現実にはあるのか ・予算案の作成の仕方、見方にも触れる	「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」

6 本時の指導(3時間目/全4時間)

(1) 本時の目標

北上市が抱える住民自治の課題や解決の方向性について協働で考察し、個人で適切に表現している。

(2) 評価規準

おおむね達成	未達成の生徒への支援・手立て
ワークシートへの記述・記入で評価する。 地方財政の在り方について、自分や公など複数の立場に立って理由づけをしたりしながら、自分の考えを表現できている。	ワークシートへの記述・記入で評価する。 地方財政の在り方について、自分と公の複数の意見を比較し、価値を見出すことができる。

(3) 指導構想(本校の研究主題とのかかわり)

本時では、住民自治の具体的な参画の第一歩を踏み出すために、「自分」「公」の2つの視点から、実現可能な改善策を協働で導き出す活動に取り組む。個人ではこうしたいと思うことも、いざ吟味すると、公においてできることとできないことが出てくる。主張の判断規準として、既習事項の効率と公正の観点で吟味し、有効性を持たせることで、個人の思いを公の場でも、発信できる生徒を育てたい。主体的、対話的で深い学びを通して、公の意見を把握し、時には受け入れ、時には対立しながらも、実現可能な合意形成を繰り返す、これからの岩手県民を育てていきたい

本校の研究主題は学びつづける力を育てる授業実践のために、学び方を「学びの型(学びのプロセスを授業に当てはめて具体的にしたもの)」として定義し、「主体的・対話的で深い学び」に留意しながら授業改善を行い、質の高い学び、生涯にわたって主体的に学び続けられる生徒の育成を目指して校内研究を推進している。「学びのプロセス」を重視した授業で、生徒の力を育てたり高めたりすることをねらいとし、研究内容が各教科・領域等の教育計画や授業に生かされるように取り組んでいる。

その「学びのプロセス」は以下のとおりである。

《学びのプロセス》

- ① 目的意識をもちながら課題に立ち向かう
- ② 解決までの道のりを見通し、解決方法を予想し、解決方法を学んだり選択したりする
- ③ 予想やモデル(やり方)を参考にしたり、熟考したり試行錯誤したりする
- ④ 他とのかかわりを通して課題解決する
- ⑤ 学習をふり返り、新たな課題に向かう

(4)展開

段階	生徒の思考・学習過程 プロセス=(学びのプロセス)★	学 習 活 動	
		生徒の活動(○主な発問等)	□指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1 前時の復習 2 見通しの確認 プロセス① ★何を学習するのか 3 課題把握	○調べてきたことを確認しよう ○それは誰にお願いするのがよいのだろう	□テンポ良く、すすめる
自分たちの願いと、北上市の財政運用の現状を比較し、実現可能な意見へまとめよう			
展開 30分	4 モデル理解 プロセス② ★どのようにやればいいのか 5 個々の課題追究 プロセス③ ★わかりたい ★知りたい 6 かかわり合い プロセス④ ★深めたい ★認められたい ★みんなと解決したい 発 表 7 課題解決	・前時のワークシートを参考に以下の4つの観点に、自分が北上市に要求したい意見を当てはめて整理してみよう ① 効率は良いか(即時性、無駄は) ② 公正か(機会や結果は平等か) ③ 実現可能か(本当にできるのか) ④ 持続可能なアイデアか(この先)その後グループで共有し、班で、今現在の北上市のお金の使い道として、合意できるものを選びだす。 ○公助における財政 ○これらの意見をどのように市政に届けられる? →共有する	□レポートにまとめた具体的な数字とデータを用いる。 □単に財政金額の大小に固執しない ◆個人でのワークシート取り組み ◆グループワーク 共有 □選択の主体となる権利 □コロナ禍における持続可能な発展のために ◆グループワーク 深める
終末 15分	8 まとめ	まとめを記入する	
本時のまとめ 視点 課題にそったまとめを生徒の考えで記入する			
	9 自己評価 プロセス④⑤ ★できたという実感 ★学びの実感 10 次回予告	学習の振り返り ○実際に届ける手段はないのだろうか	